



子どものフィジカルリテラシー 習得に関する家庭環境調査： サマリー版

JSC情報・国際部 情報戦略事業資料
(2023年3月)

JSC「子どものフィジカルリテラシー獲得に関する家庭環境調査」における定義



(c) 日本スポーツ振興センター

フィジカルリテラシーは、これまで日本で
行われてきた「幼児期運動指針」に基づく
様々な取組とも、なじみのよいものです。

フィジカルリテラシー概念の第一人者で
あるWhitehead博士が言うように、今後
日本の関係者が寄り合って定義を議論し、
決定されることが望まれます。



文科省
「幼児期運動指針」

ガイドブック 1)

日本スポーツ協会
「アクティブ・チャイルド
・プログラム」



ガイドブック
「みんなで遊んで元気アップ！」 2)



日本レクリエーション協会
「親子でげんきアップ！」

参考資料
「おやこでタッチ！」 3)

イラスト出典：

- 1) https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
- 2) <https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html?mid=4316#guide10>
- 3) <https://kodomo.recreation.or.jp/download2/>

本調査におけるフィジカルリテラシー スキルの構成領域

* カナダ、豪州などの枠組みをもとに、JSCで作成
(2018)



JSCインサイト：子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査（2018/22）

【目的】 現在、我が子を地域スポーツ活動に参加させていない保護者に対して、**自治体や地域スポーツ関係者がどのような支援や働きかけを行えば、保護者が子どもたちを参加させられるようになるか（あるいは参加させても良いと思うようになるか）**について、理解を深めること。


知りたいこと

- 既存の子ども向けプログラムの集客効果をあげるようなマーケティングのあり方
- → “ ” 実施効果をあげるための少年団や家庭への介入のあり方


リサーチクエスト

- 保護者は子どものスポーツや健康について、どのくらい知識や関心があるのか。
- 現実には家庭生活の限られたお金や時間の中で、それらがどのくらい優先されているか。
- 東京2020大会やコロナ禍によって、これらの事柄に変化がおきたか。

アクティブ・チャイルド・プログラム¹⁾



親子でげんきアップ!²⁾



イラスト出典：1) <https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html?mid=4316#guide10>
 2) <https://kodomo.recreation.or.jp/download2/>

スポーツ未関心層家庭からの回答も得るために、マーケティング調査会社が保有する消費者パネルを利用し、オンラインアンケートを行う。調査の性質上、子どもの運動嗜好がある程度固まっており、かつ保護者がそれを振り返り可能であると思われる年代として、5歳から15歳の子どもを持つ男女を対象とする。

- 業務委託先: (株) ショッパーズアイ社 -- パネル調査の画面作成、実施、分析、サマリーレポート
- 回答者: 5-15歳の子供を持つ全国の男女 (子供が複数いる場合は末子について)
- 回収サンプル数: 1,000
- 実施時期:
 - 2018年11月16日 (金) ~18日 (日)
 - 2022年3月14日 (月) ~16日 (水)
- 既存の回答者属性情報: 性別、年齢、居住地 (都道府県)、職業、未既婚、子供の有無
- 質問項目: スクリーニング+ 本調査40問

セクション	質問項目の例
家庭生活や子育てについて (Q3~Q11)	健康三原則の実践状況、家庭の決まり事、子育て上の価値観、親自身の地域参画状況 など
子どもの習い事について (Q12~Q16)	習っている (習わせたい) 習い事、実際にかけている費用や時間、そのうちスポーツ関連の習い事が占めている時間 など
子どもの運動やスポーツについて (Q17~Q31)	子ども自身の運動時間 (通学/遊び/クラブや部活)、強度・レベル 子どもの運動主観 (好きか嫌いか、クラブなどへの誘引・阻因) 親の子どもスポーツへの主観 (親はどう関わるべきか) など
親の運動やスポーツについて (Q32~Q39)	親のスポーツ歴、親のスポーツTV観戦時間、親の運動時間 (親単独/子どもと一緒に) 親の運動主観 (好きか嫌いか、クラブなどへの誘引・阻因) 親のスポーツへの主観 (する・みるスポーツに期待する価値観) など

- 本研究におけるオンラインパネル調査は、(独) 日本スポーツ振興センター情報・国際部情報戦略課の事業として実施し、調査設計には中村宏美、河原工、木村良輔が加わった。また結果分析には、藤田峻介が加わった。また岡出美則教授 (日本体育大学)、青野博室長代理 (日本スポーツ協会) に、ご助言をいただいた。
- 調査にあたっては、国立スポーツ科学センターの倫理審査を受けた。

パネル調査 設問一覧

Q番号	設問文	設問タイプ	区分
Q1.1	あなたの平日の起床時刻について教えてください。	SA	③
Q1.2	あなたの休日の起床時刻について教えてください。	SA	③
Q1.3	あなたのお子さんの平日の起床時刻について教えてください。	SA	③
Q1.4	あなたのお子さんの休日の起床時刻について教えてください。	SA	③
Q2.1	あなたの平日の就寝時刻について教えてください。	SA	③
Q2.2	あなたの休日の就寝時刻について教えてください。	SA	③
Q2.3	あなたのお子さんの平日の就寝時刻について教えてください。	SA	③
Q2.4	あなたのお子さんの休日の就寝時刻について教えてください。	SA	③
Q3.1	あなたのお子さんの平日の朝食について教えてください。	SA	③
Q3.2	あなたのお子さんの休日の朝食について教えてください。	SA	③
Q4.1	あなたのお子さんは、TV・DVD・ゲーム機・スマートフォン・パソコンなどの画面を、平日に一日あたりどの程度見ていますか。学校や塾、習い事などで指示されて使っている時間は、含みません。	SA	③
Q4.2	あなたのお子さんは、TV・DVD・ゲーム機・スマートフォン・パソコンなどの画面を、休日に一日あたりどの程度見えていますか。学校や塾、習い事などで指示されて使っている時間は、含みません。	SA	③
Q5	あなたのお子さんは、登校・登園時、片道どのくらいの時間を、徒歩や自転車移動しますか。保護者の方が抱っこしたり、自転車に乗せたりしている時間は含みません。	SA	③
Q6.1	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／家族で、その日にあったことについて話す	SA	②
Q6.2	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／親の意見をいう前に子どもの意見を聞いている	SA	②
Q6.3	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの挑戦や努力をほめるようにしている	SA	②
Q6.4	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの部活動や習い事のため、家族の都合や生活時間をあわせている	SA	②
Q6.5	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの希望は、多少無理をしても叶えてあげる	SA	②
Q6.6	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／親子で色々なことを一緒にしたり、見たりするようにしている	SA	②
Q6.7	子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／普段の生活では、家族の健康を一番に優先している	SA	②
Q7	あなたが子育てで重視すること、お子さんに身につけてほしいと思っていることについて、当てはまるものをすべて教えてください。	MA	②
Q8	あなたのお子さんの普段の様子について、当てはまるものをすべて教えてください。	MA	①
Q9	あなたの家や家の近くには、お子さんが体を動かして遊ぶスペースがありますか。遊び場がいくつかある場合は、主に遊んでいる場所についてお答えください。	SA	④
Q10	あなたは現在、地域活動や社会活動に参加していますか。当てはまるものをすべて選んでください。	MA	④
Q11	あなたが子育てについて信用する情報源は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。	MA	④
Q12	あなたのお子さんの習い事や部活動について、現在習っているものをすべて教えてください。自宅内・外を問いません。保護者や家族の方が教えているものも含みます。	MA	①
Q13.1	先にお答えになった現在の習い事や部活動について、毎月トータルでどの程度の費用がかかっていますか。体をよく動かすものと、座ったままが多いものに分けて、お答えください。兄弟で合算になっている場合などは、一人当たりの目安でお答えください。衣装や道具、合宿や発表会などの臨時費用がある場合は、おおよその月平均をできる限り含めてください。／体をよく動かす習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問	SA	③
Q13.2	先にお答えになった現在の習い事や部活動について、毎月トータルでどの程度の費用がかかっていますか。体をよく動かすものと、座ったままが多いものに分けて、お答えください。兄弟で合算になっている場合などは、一人当たりの目安でお答えください。衣装や道具、合宿や発表会などの臨時費用がある場合は、おおよその月平均をできる限り含めてください。／座ったままが多い習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問	SA	③
Q14.1	あなたのお子さんは現在、1週間にどれくらいの時間をトータルで習い事に費やしていますか。自宅での予習や練習時間なども含みます。体をよく動かす習い事と、座ったままが多い習い事に分けて、お答えください。／体をよく動かす習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問	SA	①
Q14.2	あなたのお子さんは現在、1週間にどれくらいの時間をトータルで習い事に費やしていますか。自宅での予習や練習時間なども含みます。体をよく動かす習い事と、座ったままが多い習い事に分けて、お答えください。／座ったままが多い習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問	SA	①
Q15.1	過去に習っていたが、現在はやめてしまった習い事や部活動があれば、教えてください。	FA	①
Q16	あなたがお子さんに習わせたいもの、体験させてみたいものについて、当てはまるものをすべて教えてください。	MA	②

区分 ① 子どもの発達・スキル獲得に関する質問
 ② 親の主観的影響に関する質問
 ③ 家庭環境 (親の客観的影響)
 ④ 地域・社会環境 (親・家庭以外の影響)

設問タイプ: SA: Single Answer 択一式
 MA: Multi Answer 選択式 (複数選択可)
 FA: Free Answer 自由記述式

(続き)

Q番号	設問文	設問タイプ	区分
Q17.1	あなたのお子さんは、平日の休み時間や放課後、自由に体を動かす遊びや運動を、1日にどのくらいしていますか。おおよその時間を教えてください。ただし運動関連の習い事や部活動、学校・園の授業やお遊戯など、指導者の指示・指導によるものは含めません。	SA	①
Q17.2	あなたのお子さんは、休みの日に、自由に体を動かす遊びや運動を、1日にどのくらいしていますか。おおよその時間を教えてください。ただし運動関連の習い事や部活動、学校・園の授業やお遊戯など、指導者の指示・指導によるものは含めません。	SA	①
Q18	あなたのお子さんは、学校や園の授業やお遊戯以外で、自由に運動や体を動かす遊びをするとき、何人くらいのお友達と一緒に遊んでいますか。	SA	①
Q19	あなたのお子さんは、自転車に乗ることができますか。	SA	①
Q20	あなたのお子さんは、普段から何かにぶつかったり、転んだりしてケガをすることはありますか。	SA	①
Q21	あなたは、あなたのお子さんの体力テストや発育検診の結果を把握していますか。	SA	③
Q22	あなたは、あなたのお子さんが好きな運動やスポーツを知っていますか。するもの、見るものどちらでも構いません。	SA	③
Q23	あなたのお子さんが運動しているときの様子を、当てはまるものをすべてお答えください。	MA	①
Q24	あなたのお子さんは、体力・運動能力に自信があるように見えますか。	SA	①
Q25	あなたのお子さんは、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツが好きですか。	SA	①
Q26	あなたのお子さんが運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツを好きになったと思われるきっかけや影響について、当てはまるものをすべて教えてください。 ※Q25「 そう思う・ややそう思う 」を選んだ回答者に対する設問	MA	①
Q27	あなたのお子さんが運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをあまり好きでない(嫌いになった)と思われるきっかけや影響について、当てはまるものをすべて教えてください。 ※Q25「 あまりそう思わない・全く思わない 」を選んだ回答者に対する設問	MA	①
Q28	あなたのお子さんが現在、運動・スポーツ関係の習い事や活動をしている場合、どこで行っていますか。当てはまるものをすべてお答えください。	MA	①
Q29	あなたのお子さんが運動部活動や、その他のスポーツクラブ・スクールなどに加入したきっかけについて、当てはまるものをすべて教えてください。	MA	①
Q30	あなたのお子さんが運動部活動や、その他のスポーツクラブ・スクールに現在入っていない、やりたいのだができない理由について、当てはまるものをすべて教えてください。 ※Q28「 入っていない・入っていたがやめた 」「 やりたいのだができない 」を選んだ回答者に対する設問	MA	①
Q31.1	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの運動能力は生まれつきにかかわらず、よい指導で伸ばすことができる	SA	②
Q31.2	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／子どもに好きなスポーツを選ばせた方がよい	SA	②
Q31.3	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／運動嫌いでも、無理やり何か運動をさせた方が、子どものためになる	SA	②
Q31.4	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／小さいうちから、いろいろなスポーツを体験した方がよい	SA	②
Q31.5	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／なるべく早いうちからたくさんトレーニングした方が、トップアスリートになれる可能性が高い	SA	②
Q31.6	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／親子が日頃から一緒にスポーツをしたりすることは、子どもの成長にとって大事だ	SA	②
Q31.7	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／親が苦手なスポーツや経験したことがないスポーツでも、子どもと一緒にやったり教えたりすべきである	SA	②
Q31.8	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／自分の子どもを指導するコーチと、話をしたり聞いたりすることは大事だ	SA	②
Q31.9	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／理由の如何を問わず、子どもや青少年のスポーツで体罰は与えられるべきでない	SA	②
Q31.10	子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／運動やスポーツを経験することは、人生の役に立つ	SA	②
Q32	あなたのこれまで(主に中／高時代)のスポーツ経験について教えてください。	SA	③
Q33.1	あなたは、スポーツ関連の番組・記事やネットなどの情報などを平日で一日に何時間くらい見ますか。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。	SA	③
Q33.2	あなたは、スポーツ関連の番組・記事やネットなどの情報などを休日で一日に何時間くらい見ますか。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。／あなたの休日のスポーツ関連の番組・記事の視聴時間	SA	③
Q34.1	あなたの現在の、平日1日あたりのスポーツ・運動時間について教えてください。通勤や家事のための徒歩や自転車は含みません。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。	SA	③
Q34.2	あなたの現在の、休日1日あたりのスポーツ・運動時間について教えてください。通勤や家事のための徒歩や自転車は含みません。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。	SA	③
Q35.1	あなたの平日の運動時間のうち、お子さんと一緒に行っている時間はどのくらいありますか。	SA	③
Q35.2	あなたの休日の運動時間のうち、お子さんと一緒に行っている時間はどのくらいありますか。	SA	③
Q36	あなたは、スポーツが好きですか。	SA	②
Q37	あなたご自身が運動やスポーツを好きになったきっかけについて、当てはまるものをすべて教えてください。 ※Q36「 はい 」を選んだ回答者に対する設問	MA	②
Q38	あなたご自身が運動やスポーツをあまり好きでない(嫌いになった)きっかけについて、当てはまるものをすべて教えてください。 ※Q36「 いいえ 」を選んだ回答者に対する設問	MA	②
Q39	あなたは、運動・スポーツをすることによって、何を期待しますか。当てはまるものをいくつでもお答えください。広くスポーツ全般について、期待されることをお聞かせください。	MA	②

- 区分
- ① 子どもの発達・スキル獲得に関する質問
 - ② 親の主観的影響に関する質問
 - ③ 家庭環境(親の客観的影響)
 - ④ 地域・社会環境(親・家庭以外の影響)

設問タイプ: SA: Single Answer 択一式
 MA: Multi Answer 選択式(複数選択可)
 FA: Free Answer 自由記述式

調査結果（単純集計表）

- ▶ それぞれのオンラインアンケートの単純集計表（GT表）は、以下よりダウンロードできる。

- ▶ 2018年調査（2018年度）

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/gt%20kodomo2018.pdf>

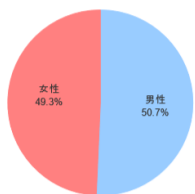
- ▶ 2022年調査（2021年度）

https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/SPID/research/20220725_JSC_PLsurveyFY2021_GT.pdf

オンラインアンケート (2018年調査)

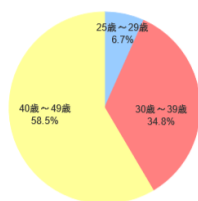
2018年調査 回答者 (保護者) の属性 ①

性別



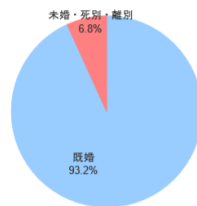
(n=1,000)

年代別



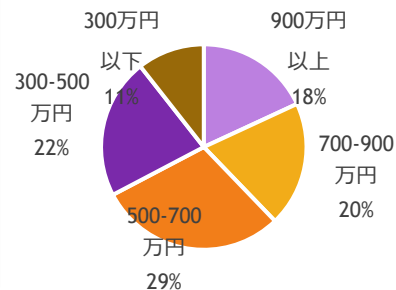
(n=1,000)

婚姻状況

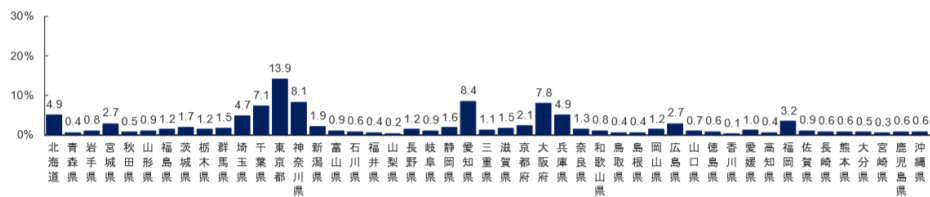


(n=1,000)

世帯収入



居住地



回答者 (親)

- 5-15歳の同居する子どもを持つ, 全国の男女各500人 (合計1,000名)
- 平均年齢 49.0歳

回答対象児童

- 5-8歳 - 415人 (男子221, 女子194)
- 9-12歳 - 358人 (男子166, 女子192)
- 13-15歳 - 227人 (男子113, 女子114)

量的調査（オンラインアンケート）のサマリー

子どものフィジカルリテラシーに影響を与えうる主要因

親の客観的要因：

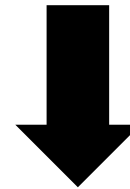
- ◆家庭の収入・時間（ある程度の余裕が必要）

親の主観的要因：

- ◆親の社会関係資本：
（地域とのつながりや、信頼できる子育て情報源）
- ◆スポーツ・健康・子育て、特に
 - ①親のスポーツに対する態度や価値観
 - ②親の子育てへの態度や関心
 - ③家庭の普段の生活態度（健康・幸福）

これらの要因が低いと
子どものフィジカルリテラシーが
低い傾向

- 特に子どもの
- ・ 心理（運動感情）
 - ・ 身体（運動実施機会）



さらなる深堀の余地

- 家庭の客観的要因は、スポーツ行政だけでは変えられないが、**家族と子どものスポーツや健康・発達に関する意識・態度の働きかけは可能。**
- **スポーツを接点とした、親子と地域社会のかかわり方についても、新たなモデルを模索する余地がある。**

【考察・結論】

- ほとんどの親は、子どもがスポーツと関わることには肯定的であり、親の時間や家計が許す限り、なるべく子どもの運動機会を実現してあげようと思っていることがうかがえる。また親のスポーツ歴・スポーツ嗜好にかかわらず、我が子が実際に何らかの地域スポーツにかかわっている場合には、その意義を認めている割合が高い。しかし子どものやる気を積極的に引き出したり、部活や習い事を辞めた後でもスポーツや運動を続けるように勧めたりする親はさほど多くない。
- 現在発行されている、保護者向けの子どものスポーツに関するガイドブックには、幼児期の運動の大切さや、子どもを様々な面で励ますような言葉かけの重要さが示されている。しかしこうした意見に賛同していない親は、自分の子どもが運動好き・運動が得意とは思っていない割合が高く、実際に子どもにスポーツ経験を与えていないことが多かった。
- したがって「子どものフィジカルリテラシーは、よい指導がなければ身に付かない」ということを知り、たとえ自分が一緒に運動できない場合でも、学校や地域で子どもが楽しく身体を動かす機会を確保できれば、それでよいというメッセージを伝える必要がある。

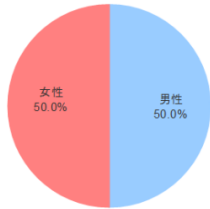
(続き)

- 現在、運動系の部活動や習い事といった、学校体育以外に身体を動かす場に我が子を送りだしていない親にとって、その阻害要因は何なのか、どうすれば送り出していいと思えるか、さらに理解を深める必要がある。
- また、現状の子ども向けスポーツプログラムの効果をさらに上げるためには、子供た小さいうちからフィジカルリテラシー全般を育むような働きかけを、家庭でも行ってもらうことが不可欠である。
- ◆ **例えば、実際に子どもを習わせている親たちが、「スポーツが子どもの成長面にもたらしていると実感している効果」をより具体的に地域社会の中で伝えていくことは、現在スポーツ系の習い事に関心がない親に対する誘引となりえると考えられる。**
- ◆ **こうした親の態度を引き出すためのアプローチを考慮するに当たっては、親の客観面だけでなく主観面、特にアンケート結果で子どものフィジカルリテラシー獲得と相関の高かった、親のスポーツへの関心、健康への関心、子育てへの関心、そして地域とのつながりについて、セグメント化を行うことが有効であると想定される。**

オンラインアンケート (2022年調査)

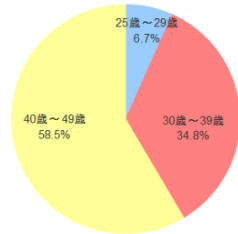
2022年調査 回答者 (保護者) の属性 ①

性別



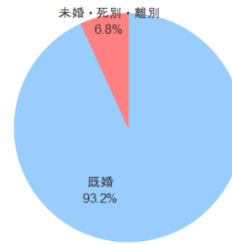
(n=1,000)

年代別



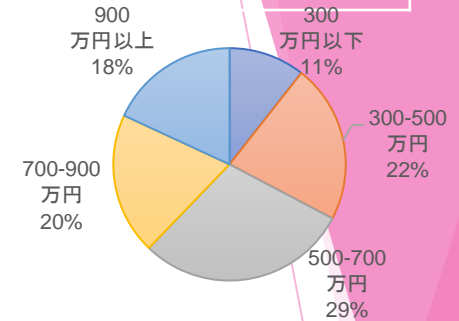
(n=1,000)

婚姻状況

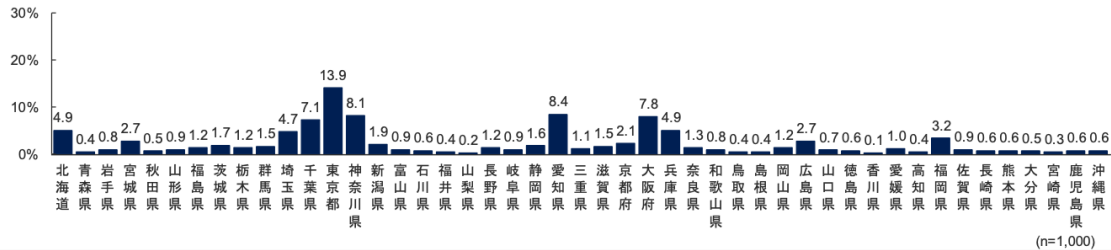


(n=1,000)

世帯収入



居住地



(n=1,000)

回答者 (親)

- 5-15歳の同居する子どもを持つ, 全国の男女各500人 (合計1,000名)
- 平均年齢 49.0歳

回答対象児童

- 5-8歳 - 415人 (男子221, 女子 194)
- 9-12歳 - 358人 (男子166, 女子192)
- 13-15歳 - 227人 (男子113, 女子114)

※：質問内容、並びに調査委託会社は、2018年と同様。
 ※ 回答対象児が複数いる場合は末子。なお前回実施時 (2018年) は回答対象児に5-8歳が多くなったため、今回はなるべくばらつきが出ないようにした。

2018年と2022年の回答結果比較

(p<0.01を抜粋)

運動実施状況には
統計上有意に差はないが、
子どものフィジカルリテラシーに
影響を及ぼしうる要素が
ネガティブな方向に

Q1	起床時間	(遅) 親・平日/子・休日
Q2	就寝時間	(遅) 子・平日/子・休日
Q4	子どもの画面時間	(+) 平日/休日
Q6	家庭生活の普段の様子、決まり事	(-) 親の意見を言う前に子どもの意見を聞いている
Q10	親の地域社会活動	(-) 町内会や自治会、自身のスポーツサークル・ボランティア (+) 特に関わっていない
Q16	今後習わせたい・体験させたいもの	(-) 学習塾・そろばん・知育プログラム/音楽・楽器・声楽/ダンス・バレエ・チア・日舞・演劇 (+) あてはまるものはない
Q17 & Q18	子どもの自由な運動・遊び	(-) 平日(時間) / 一緒に遊ぶ友達の数
Q22	子どもの好きなスポーツの把握	
Q23	子どもの運動時の様子	(-) 集中・没頭 (+) 子どもの運動している様子を見ていない、分からない
Q24	子どもの運動有能感	(-) 自信があるように見えるか
Q25	子どもの運動嗜好	(-) 運動が好きかどうか
Q28	子どもの運動系習い事の場所	(-) 幼稚園・学校のクラブや運動部活動 (+) 入っていない・入っていたがやめた
Q31	親の青少年スポーツ観	(-) 子供に好きなスポーツを選ばせた方が良い/ 親子が日頃から一緒にスポーツをしたり見たりすることは子どもの成長にとって大事だ/ 自分の子供を指導するコーチと話をしたり聞いたりすることは大事だ
Q33	親のスポーツメディア視聴時間(平日)	
Q35	親子一緒に運動時間(平日)	
Q36	親の運動嗜好	
Q39	親がスポーツ一般に期待すること	(-) 目標達成感ややりがい、自信を味わう/ コミュニケーションスキルが身につく/ 礼儀やマナーが身につく/ 仲間や友達ができる、話題のネタになる/ 仕事や学業にも役立つスキル・人脈が身につく

2022年調査からの含意・考察

▶ 国の悉皆調査(スポーツ庁、2021)では、子どもの身体活動量の低落や運動感情の悪化が、コロナ禍によって拍車がかかっていることが示唆されており、本調査も同様の結果を示した。また親が子どもにスポーツをさせよう(させてもよい)と思う家庭環境要因も、客観・主観の両面で改善がみられなかった。東京2020大会も、スポーツへの期待や好感度を持続的に変化させるものではなかったと推察される。

▶ 運動系の習い事をしていない子どもの理由として、「子どもがやりたがらない」を挙げる人の割合が増えている。また「用具が手に入らない」など、スポーツになじむ環境にない子どもたちでは、運動好きである割合も低いことも気にかかる。

▶ 前回調査よりも親の社会関係資本が低落していることを踏まえれば、子どもを地域スポーツに送り出す上での親の判断材料不足につながる可能性が高まることも予想される。

▶ 地域社会とのつながりの薄い親子を場に引き出す取り組みも同時に行うことが、一層重要となる。例えばホストタウンのレガシー事業のように、単に身体を動かすのみならず、地域の魅力や人とのつながりといった多様なスポーツの価値を体感できるような取り組みをその契機とすることも一案であろう。

質的調査・デプスインタ ビュー (2020年調査)

子どもに地域スポーツ参加*させていない母親への深掘り（デプス）インタビュー

*子どもの地域スポーツ：運動部活動や、運動系の習い事（地域のスポーツスクール、クラブ、少年団など）

【目的】

- ▶ 現在、我が子を地域スポーツ活動に参加させていない保護者に対して、自治体や地域スポーツ関係者がどのような支援や働きかけを行えば、保護者が子どもたちを参加させられるようになるか（あるいは参加させても良いと思うようになるか）について、理解を深めること。

【業務委託先・内容】

- ▶ 株式会社アスマーク（本社：東京渋谷区）、以下のインタビュー実施（対象者のリクルート、インタビュー録取作成を含む）

【スケジュール／インタビュー実施・場所・時期・納品】

2020（令和2）年：2月5日（水）～10日（月）	委託契約後、対象者リクルート条件の確定
12日（水）～18日（月）	リクルート開始、対象者の確定
22日（土）～23日（日）	実査 於：JSC（本部棟B101会議室、JSC日本青年館ビル7階会議室）
28日（金）	インタビュー録取全件の納品（JSC本部への持参または記録郵便） → JSCは10営業日以内に検品

【インタビューの方法】

- ▶ インタビュー：時間は1対象者につき、60分。対象者同意の上で録音することとし、後日書き起こしを行う。調査会社が手配したモデレーターによる、1対1での対面聞き取り。記録者1名ならびに、被験者同意手続きのためにJISS研究員1名が同席する。
- ▶ ・対象者への謝金：1名7千円（後日調査会社より送付）、交通費は支給しない。

【インタビュー対象者とその選定】

- ▶ 別紙に述べる2つのセグメントにつき、各4名（計8名） ※量的調査（オンラインアンケートに基づくセグメント）

【法的関係、その他】

- ▶ ・契約書において、両者は機密保持、法令遵守、個人情報保護管理や情報セキュリティなどに最大限の注意を払う。
- ▶ ・個人情報：原則として、調査会社のみが保有。JSCは録取のみ受け取り、音声記録は調査会社が破棄。
- ▶ ・知的財産権：JSCが保有。
- ▶ ・倫理審査：JISS 済

別紙：インタビュー対象者の選定について

スクリーニング	Must	3歳から15歳の子どもを持ち（子どもが複数いる場合は末子）、その子に現在、運動系の習い事や部活動をさせていない、首都圏在住の成人女性（スポーツ・体育・教育関係者以外）			【別紙GT票質問例】 SC1～9 Q12習い事現在 Q24sq子のスポーツ嗜好 Q36親のスポーツ嗜好
	割付	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの性別、運動好き嫌い 世帯収入（年間350万円以上1千万以下？） 居住地（都市区分）＊地方都市ともなるべく条件に近い「郊外のベッドタウン」が含まれる 母親：職業（兼業・専業）、母親自身の運動好き・嫌い 			
セグメント	軸		子育て価値観・ 家庭生活のきまり	親の地域との関わり 信頼する子育て情報源	健康・ スポーツ
		現在は運動系の部活動や習い事をしていなくても、何らかの働きかけがあれば、子どもに積極的に運動をさせようとする可能性が高いと推測される層	別紙GT票質問例		
			Q1-3&4子の起床時間 （特に休日） Q6家庭生活の様子 （特にQ6-3,5,7） Q7子育てで重視 Q22体力テスト把握	Q11親の地域社会活動 Q12子育て情報源	Q31子供スポーツ意見 （特にQ31-1,4） Q33親スポーツ情報接触 Q34親の運動時間 Q39スポーツへの期待
	A: 子どもの発達・教育に関心が高く、家族の健康にも気がつかっているが、地域社会とのつながりがない。	○	×	○	
B: 子どもの発達・教育に関心が高く、地域活動にもよくなかかわっているが、健康やスポーツにはあまり関心がない。	○	○	×		
実査	<ul style="list-style-type: none"> 家庭において、子育てや習い事を決める要因は何か 運動系の習い事をさせていない理由 & 何が変われば、させてもよいと思うか 				

【参考】

JSC 子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査 (2018)

- パンフレット https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc_insight_kodomo_1903brochure.pdf
- GT票 https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc_insight_kodomo_1907grandtotal.pdf
- 質問一覧 https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc_insight_kodomo_1907questionary.pdf

インタビューの結果のまとめ

現在、スポーツをしていない我が子がいる母親は...

**我が子がスポーツから
得られるものへの期待が低い
→お金や時間を投じる優先順位が低くなる**

➢ まあ、学校で困らない程度に、人並みに運動できれば...

➢ 上の子ほどじゃ... / 他に手のかかる子が...

だって、うちの子
オリンピックに出るわ
けじゃないでしょ？

➢ 嫌がるのを無理やりやらせても、身につかないし...

どうせすぐやめるでしょ？

- 入会金や道具の購入...お金がもったいない!!!
- 送り迎えや、お茶当番...そこまでできない!!!
- 近所のクラブをすぐにやめたら、親子共々地域での居心地が...!!!

- 時間とお金は限られている...
- やめたときも心配...

どうしてもやりたいっていうなら...

- 気軽に試せるなら、やめてもいいなら、
- 親の負担がそこまでないなら...
- スパルタ指導やいじめがないなら... (ママ友情報)
- たまには週末の家族の団欒も... (子ども < "家族")

- 無理強いしてまでは...
- 通わせるなら、安心が

親のフィジカルリテラシー不足：

- スポーツがもたらす特定の利点、特に身体的スキルに加えて心理的、社会的、認知的スキルの重要性を知らない。
- 基礎的動作は、習えば身につくものであると知らない。

親のソーシャルキャピタル不足：

- 子供が地域スポーツに参加し、あまりにも早くあきらめた場合に、家族全員が近所で感じるかもしれないぎこちなさを懸念
- スポーツ界における「親であること」へのサポート不足

— **親が健康・発達に関心を持っていれば、自身がスポーツを教えなくてもよい、一緒にしなくてもよい (地域社会の受け皿)**

量的・質的調査のまとめ・ 提言

運動系部活動・習い事をさせていない親の「ホンネ」

親の主観的要因：

- 社会関係資本（地域とのつながり・情報源）
- スポーツ・健康・子育て、特に
 - ① 親のスポーツに対する態度や価値観、
 - ② 親の子育てへの態度や関心、
 - ③ 家庭の普段の生活態度

親の客観的要因：

- 収入・時間（ある程度の余裕が必要）

行動変容における「前関心層」

子どものスポーツのために
「何か」を犠牲にはしない

ほとんどの親が「オリンピックの親」のように考えることができるわけではない。

大半の親は、家族の健康と幸福を望み、子供たちの総合的な発達の引き金となるものを求めている。また家族の時間とお金が許す限り、子供たちがさまざまな経験をする機会を与えたいと思っている。だが、子供のスポーツのためだけに家族のライフスタイルを変えることは、実際には容易ではない。

- 部活や習い事をしていない（辞めた）子どものやる気を積極的に引き出したり、スポーツや運動をするように勧めたりする親はさほど多くない。
- スポーツ < 学業（その他の科目）
- 子どものスポーツ < 家族の時間
- スポーツをしているお母さんでさえ、やる気のない子供に教える（一緒にスポーツをする）のが難しいと感じることがよくある。
 - 親が自身のスポーツサークルに子供を連れて行く場合も、本来目的は「自分が楽しむため」。一時的にでも良いので、そこに子供を見ていてくれる人がいれば、親自身も楽しめる。

含意

家庭の限られた時間やお金を、子どものスポーツに割いてもらうためには、保護者に肚落ちしてもらう必要がある。



親の客観面(時間とお金)だけでなく主観面、特に青少年スポーツへの知識・関心や、健康・子育てへの価値観、地域とのつながりについてそれぞれへの態度を考慮したセグメント化を行うことが有効

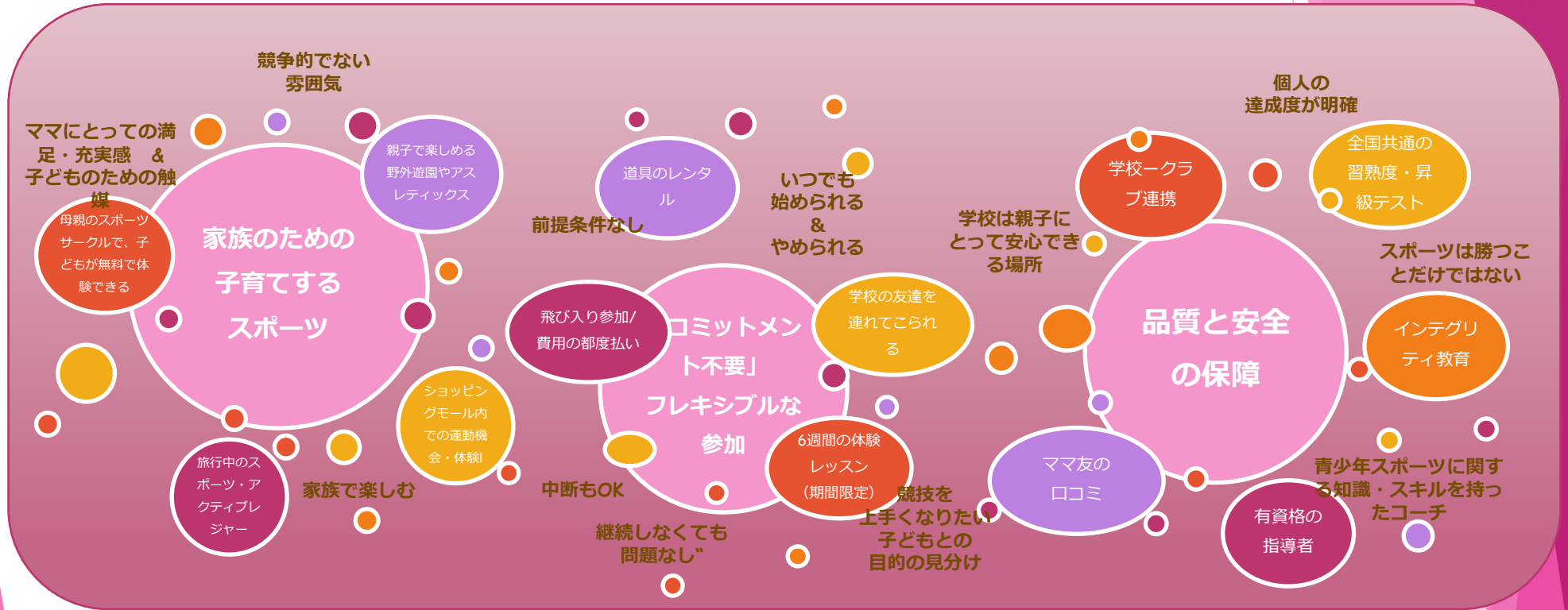
- ママ友のネットワークを介しての口コミ
 - 「スポーツが子どもの成長面にもたらしていると実感している効果」
 - 「安全保証」 - 同時に制度的な品質保証（指導者資格・認証プログラム）
- 場所と費用面でのアクセス確保/ 心理的負担の軽減：
 - 金銭・時間・感情面で、アクセス可能な場所であり続けること
 - やめても、休んでもよい（繰り返し、行動変容にトライできる）
- 「親子一緒に楽しめる」「親が楽しんでいる間、子どもを見ていてくれる」
 - 子どものスポーツのために、親のライフスタイルを犠牲にさせない。
 - 親子のニーズにあわせて、生活の中にスポーツが入り込む。

フィジカルリテラシーの重要性を主張し続けながら、現代の家族へのアプローチを調整することを検討すべき

スポーツ界に家族を適合させようとするのではなく、スポーツが「家族の生活」「子育て社会」の中でスペースを見つける必要がある。

そのためにも地域の関係者の連携・協働は今まで以上に重要

家族に寄り添った地域の青少年スポーツのためのヒント



作成：(独)日本スポーツ振興センター